

集中力、チームワーク、 作戦が勝敗の鍵を握る



左 岡本 晴美さん
Harumi Okamoto

右 岸田 哲夫さん
Tetsuo Kishida

氷上の興奮を屋内で 気軽に楽しむ

「ユニカール」……。どこかで聞いたことのあるような、ないような言葉ですよね。トリノオリンピックの女子カーリング種目で準決勝進出を逃したものの、メダル候補のカナダやイギリスを破る大活躍を見せた「チーム青森」の姿は、みなさんの記憶に新しいのではないのでしょうか。

この冬の氷上スポーツであるカーリングの興奮を、シーズン以外でも屋内で気軽に味わおうと、1979年にスウェーデ

ンで考案されたのがユニカール。「ユニバーサルカーリング」を略したもので、「いつでもどこでもだれでもできるカーリング」という意味があります。

ユニカールの輪が 少しずつ広がって

今回ご紹介する「佐治町ユニカール同好会」のみなさんは、2004年に鳥取県で開催された「第58回全国レクリエーション大会INとっとり」への出場がきっかけで始められました。

ユニカールは、特製のカーペットを体育館に敷き、その上をストーンと呼ばれる取っ手のつ

佐治町ユニカール同好会

た円盤をボーリングのように滑らせて投げ、10^ミ先にある円の中心にいかに近づけるかを競うものです。重さが約3^キあるストーンは、ずっしりとしていますが、力はほとんど必要なく、ストーンと糸を引くようになめらかに滑っていきます。男性女性、年齢など関係なく楽しむ、ストーンを離すタイミングさえつかめれば、誰でもすぐに投げられるようになるとのこと。

代表の岸田さんは「3年前の大会には3人で出場しました。今では少しずつ輪が広がってきています。ストレスの解消になるし、みんなが和やかに楽しんでやっています」と目を細めます。現在、メンバーは30〜60歳代まで10数人いらっしゃいます。

やればやるほど 奥の深いスポーツ

勝敗は1チーム3人で相手チームと対戦し、3人の合計得点で決めるもの。交互に投げ合い、相手チームのストーンを円の中心から遠ざけようとはじき飛ばしたり、ストーンを手に前に置いて仲間のストーンを守ったりと、チームワークや作戦が勝敗の鍵を握ります。

昨年、広島県で開催された